

カビの問題解決事例

(情報提供 株式会社エプロ)

【1】 洗浄室や調理施設のカビ

発生原因

食品の洗浄室や調理室は常時水を扱う事により、湯気が壁や天井に充満します。また調理による室温の上昇はカビの増殖に格好の要因となっています。

解決方法

防カビ塗装 (ガイナ、又はノン結露)

①現在出ているカビをカビサール(次亜塩素)や JUJU(強アルカリ水)で殺菌除去します
⇒噴霧又は塗布(30~50g/m²)の後、濡れ雑巾で拭き取る。

②上記乾燥後、インナーミル 550 を水で 10 倍に希釈して塗布する。使用量は 50g/m²

③断熱塗料ガイナ、若しくは結露が酷い場合は結露防止塗料ノン結露で仕上げ塗装をする。

⇒塗料の重量の 3~4%に当たるインナーミル 550 を混入し、攪拌機で 5 分以上良く攪拌して塗装仕上げを行う。

【2】 スーパー店舗の壁・天井のカビ

発生原因

食品用の冷蔵ショーケースなどによって、店舗内下部の空気が冷やされ、暖房による上部の暖気との温度差で天井に結露が発生し、カビが増殖します。

解決方法

防カビ塗装 (ガイナ)

①現在出ているカビをカビサール(次亜塩素)や JUJU(強アルカリ水)で殺菌除去します
⇒噴霧又は塗布(30~50g/m²)の後、濡れ雑巾で拭き取る。

②上記乾燥後、インナーミル 550 を水で 10 倍に希釈して塗布する。使用量は 50g/m²

③断熱塗料ガイナで仕上げ塗装をする。

⇒ガイナにその重量の 3~4%に当たるインナーミル 550 を混入し攪拌機で5分以上良く攪拌して塗装仕上げを行う。

※断熱塗料ガイナは結露抑制に通常の塗料の数倍の効果が認められています。

【3】 業務エアコン、ドレンパンのカビ

発生原因

エアコンは熱交換(エバポレーター)やフィルターの部分に常時空気の流れが有り、そこで集塵された汚れや有機物が発生する結露と共にカビ環境を作っています。

解決方法

除菌及び防カビコーティング (防カビ万能選手)

- ①エアコンを分解して洗浄清掃を行います。
- ②送風して良く乾燥させます。
- ③熱交換(エバポレーター)やフィルター部分にスーパーミル 88 を良く噴霧し再び送風して乾燥させます。
- ④ドレンパン(樹脂)の部分は清掃後、防カビ万能選手を刷毛やローラーで塗布します。

【4】 冷凍倉庫の壁や天井のカビ

発生原因

冷凍庫内の冷気が出入り口から吐き出された際に、庫外の暖気と触れ合って天井部分を中心に結露が生じ、カビが発生します。

解決方法

結露防止防カビ塗装 (ノン結露)

- ①現在出ているカビをカビサール(次亜塩素)や JUJU(強アルカリ水)で殺菌除去します
⇒噴霧又は塗布(30~50g/㎡)の後、濡れ雑巾で拭き取ります。
- ②乾燥後、ノン結露で防カビ塗装仕上げを行います。
 ノン結露下塗り剤 2度塗りをする。
 ノン結露上塗り剤 インナーミル 550 を3~4%混入して3度塗りをする。

【5】 ユニットバスの壁・天井のカビ

発生原因

風呂場内部(壁・天井)に発生する結露(湯気)や、表面への有機物の堆積(アカや石鹸カス)などで、カビが発生します。

解決方法

防カビコーティング (ストップ THE カビ)

- ①現在出ているカビをカビサール(次亜塩素)や JUJU(強アルカリ水)で殺菌除去します

⇒噴霧又は塗布(30～50g/m²)の後、濡れ雑巾で拭き取ります。

②防カビコーティング剤防カビ万能選手を塗布します。80～100g/m²

【6】 畳・壁紙(クロス)のカビ

発生原因:畳の場合

畳部屋が梅雨時などにカビの発生する原因は、部屋の通気性(換気)の悪い場合がほとんどです⇒梅雨時の空気中の温度(25度以上)と湿度(85%以上)で換気が滞った畳表面に、軽微な結露が生じてカビが発生します。

解決方法

防カビコーティング (防カビ万能選手)

①畳表面をきれいに清掃します。

②防カビ万能選手を塗布面から15～20センチほど離し薄く均一に1回～2回噴霧塗布してください。

風合いが若干変わることがありますので厚塗りは避けてください。

薄膜で十分な強度が得られます。

口径1.0ミリのスプレーガンで、塗膜は7～12μmが目安です。

発生原因:クロス(壁紙)の場合

梅雨(高温・多湿)時に部屋内の通気性(換気)の悪い壁面に、軽い結露の発生と共にカビの繁殖が起きます。また外壁に面する内壁は、冬場の温度差から生ずる結露によってカビの発生する場合があります。

解決方法

防カビコーティング (防カビ万能選手)

①クロス表面をきれいに清掃します。

②防カビ万能選手を塗布面から15～20センチほど離し薄く均一に1回～2回噴霧塗布してください。

風合いが若干変わることがありますので厚塗りは避けてください。

薄膜で十分な強度が得られます。

口径1.0ミリのスプレーガンで、塗膜は7～12μmが目安です。

【7】床下のカビ

発生原因

漏水事故後の床下や地下ピット、空気の対流の滞った縁の下の地表面などは、梅雨時の高温・多湿によりカビが発生します。

解決方法

防カビ剤散布（インナーミル 550）

インナーミル 550 を 50～80 倍に水で希釈して対象表面に噴霧します。

【8】屋根・外壁のカビや藻

発生原因

周りを森林などで囲まれた立地は藻類の浮遊濃度も高く、ちょっとした湿度と光を得る事で、屋根や外壁表面に藻が繁殖します。またカビは時に藻と共存状態になり、藻の死骸などを餌にして更に繁殖を伸ばします。

解決方法

防カビ塗装（ガイナ）

- ①既存の屋根や壁面に出ている藻やカビをカビサール(次亜塩素)や JUJU(強アルカリ水)で殺菌除去します
⇒噴霧又は塗布(30～50g/m²)の後、高圧洗浄などを掛けて除去します。
- ②屋根は屋根用、壁は壁用の断熱塗料ガイナを選定し、その重さの 2～3%のインナーミル 550 を混入して仕上げ塗装を行います。

カビ取り剤について

カビを取る材料は『殺菌・漂白・洗浄』という項目に属しますが、当社の取り扱い商品には次亜塩素系殺菌・漂白剤(カビサール)や強アルカリ電解水(JuJu)があります。

対象部・表面に生えているカビを殺菌して取り去る(漂白・洗浄)為の薬剤です。ただし次亜塩素系薬剤は最も効力の有る薬剤ですが塩素臭が強く、また強アルカリ電解水には殺菌能力は有りますが漂白能力はありません。これらの薬剤は今、目に見えて繁殖しているカビを殺して除去することが目的とされる薬剤です。

この除去したままのレベルで放置すると数週間～数か月で再びカビの発生を見ることとなります。

何故なら表面の菌は殺してもカビの菌糸が根を張る様に生きていて、再びそこから菌糸が表面に立ち現われて来るからです。

そこでその後の『防カビ処理』が具体的に問われることになります。

このページでご紹介している『インナーミル 550』(水性混入用防カビ剤)はあらゆる用途への対応能力を持っています。

【追記】

カビの発生を防止する為には次の三つの考え方があります。

塗料で

①上塗り塗料に「防カビ剤インナーミル」を混入してカビの発生を防止する

コーティング剤で

②塗装済の壁などやコンクリート、木材、壁などに防カビ剤インナーミル混入済の防カビ万能選手を塗布する

プライマーで

③塗料などの塗装する際のプライマーとしてミツチャクロンにインナーミル混入済の「防カビ万能選手」を塗布する